

社会科授業改善の視点

大 橋 忠 正

A Study on Class Improvement in Social Studies Class

Tadamasa OHASHI

Abstract

Three points can be enumerated as a viewpoint of the social studies class improvement. The first is preparation of the scientific element that the attainment target, the content of study, and the study method in the syllabus book have. The second is execution of experiment class based on the best syllabusbook. The third is an introduction of the evaluation by the social studies class communications analysis. The above-mentioned theoretical hypothesis is verified by two experiment class.

Key words

Scientific syllabus, Execution of experiment class, Analysis of communication in social studies class, Understanding of children in social studies class.

I 問題の所在

これからの学校教育は、教育の成果（Outcome）に責任を持つ教育に変わろうとしている。教員の力量についても単なる意識改革などの論ではなく具体的で客観的な事実・証拠（Evidence）で示すことが求められている¹⁾。とかく証拠より論が多すぎると言われる教育界。教員は指導と評価を一体として捉える授業改善に迫られている。

果たして、学校は子供に確かな学力を保証しているだろうか。学力とは学校で身に付けさせたい力であり、子供が教育課程全体の中で身に付けていく学ぶ力の総称である²⁾。具体的には、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の教育活動で得られる観点別学力を指し、これが学校教育で言う基礎学力にあたる。一般的に、学力問題とは学校がねらう学力と子供に身に付く学力とのギャップを言い、この問題の浮上も教育成果に責任を持つ見方の表れである。近年、教員の資質、能力を評価する授業力検定制度が話題になっているのもこうした世論の反映と見ることができる³⁾。

教育職員養成審議会第一次答申では、「教員としての資質、能力は、養成・採用・現職研修の各段階を通じて形成されていくものであり、その向上を図るための方策は、それぞれの段階を通じて総合的に講じられる必要がある⁴⁾」と述べてあり、学校現場では教員が各段階を経て明確な資質、能力を形成していくことに期待がかけられている。しかし、教員は、不断に確かな職能成長を続けているだろうか。「教員免許状は紙屑である⁵⁾」と日頃の教員の指導力不足を嘆き、断ずる現職校長の意見表明は、その不十分さを吐露している。この指摘は、一見、教員養成大学・学

部における養成段階の教育・研究者の指導状況への批判に見えて、内実、学校現場における教員の授業力向上・職能成長にかかわる校内研修体制等の不備を露呈したものと言わねばならない。教職歴に比して自己の授業力の弱さに悩む教員は多い⁶⁾。

このように教員の資質、能力、わけでも、教員の安定した授業力向上は喫緊の課題である。この場合の授業力とは、個別指導、グループ別指導などの部分指導ではなく、一斉指導の授業形態における授業力を言う。授業設計の基本は一斉指導の授業形態にあり、今、その指導力低下が問題になっている⁷⁾。では、一斉指導の授業形態における授業改善の策として、どのような視点が考えられるだろうか。

本稿では、次の三点を提起する。一つは、授業がもつ公的・客観的側面の整備である。授業設計には二側面がある。教師と子供で個別的・創造的に創られる側面と第三者の指導・助言を得て授業前に教師の手で公的・客観的に創られる側面である。通常は、個別的・創造的側面が支持され評価されているが⁸⁾、授業改善の視点から見ると公的・客観的側面に着目する必要がある。二つは、最善の授業計画書に基づく実験授業（研究的な誇張授業）の実施である。教員の授業力と授業で育つ子供の到達点の予測力とは相関関係にある。授業で子供が育つ目安を高く予測し実証できる教員は、教育歴において実績があり、授業力の可能性（Potential）がある。その目安の高さの追究には、通常の授業に依らない最善の授業計画書に基づく実験授業（研究的な誇張授業）の実施が適切、有効である。三つは、客観的な授業分析による授業評価である。授業計画は授業仮説でもあり、授業評価はそれが適切であったかを確かめる検証活動に相当する。それには客観的な授業分析による評価が有効である。

ここでは、社会科授業を事例として授業改善の三点について検討を行っていく。

Ⅱ 社会科授業改善の構想

1 授業設計の原理

授業は、本来、科学であり、授業者の人格、性格、経験差などの属性に依らないで客観的に成立する一面がある。また、授業は、特定個人の技に頼る名人芸でもなく、授業者の主観的能力に委ねられるべきものでもない。それは次の授業原理に依る。

授業設計には二つの側面がある。一つは、授業前の設計で教師の手で授業計画書（学習指導案、学習指導細案、教材）を創る側面、適正であれば客観的に授業を成立させる機能がある。二つは、授業時の設計で授業計画書をもとに子供と創る側面、子供の反応を受けとめ、教師と子供の協同活動として授業を創造的に創る機能である。このうち、重視すべきは前者。授業が科学として成立するためには、適正な授業計画書の作成が必要になる。

2 社会科授業の基本原則と授業設計の視点

社会科は、民主的社会の構成員の育成に深くかかわる教科である⁹⁾。社会生活についての理解を図り、それを通して公的資質の基礎を養うことを目標とする。公的資質の育成は社会科の究極のねらいであり、それは、社会科授業において、理解、能力、態度の統一の育成を図ることにある。社会認識とは、社会について何らかのことがその人なりに分かることであり、授業では主体的な社会認識を原則とし¹⁰⁾、事実認識から価値認識に至る学習活動を方法原理とする。事実認識とは、社会的事象の機能的側面の理解（認知的側面）、価値認識とは、事実認識に裏づけられた価値的側面の理解（情意的側面）を意味する。

学習指導要領でいう「態度にかかわる目標」は価値認識に相当する。この「態度にかかわる目標」は、授業場面では、社会的行動、態度として現われるよりは、その前段階の心的態度である価値的な認識活動として現われることが多い。それは社会的事象に対する共感や敬愛等の情意であり、事実認識に基づき自ずと形成される認識活動である。

(1) 観点別目標の設定

社会科授業設計に当たっては、観点別目標を明記した学習指導案を作成する必要がある。四観点は、社会科の理解、能力、態度目標の具体化にほかならない。しかも、この四観点には、次のような相互関連が考えられる。「知識・理解」「観察・資料活用の技能・表現」「社会的思考・判断」の三観点は認知的側面、事実認識に関する観点である。「関心・意欲・態度」は各子供の事実認識における個性的統一を目指すものであり、情意的側面、価値認識に関する観点である。

したがって、学習指導案に観点別目標を明記することは、事実認識から価値認識に至る授業設計の構想・作成においては欠かせない作業手順である。

(2) 社会科授業における教材(資料)の整備

社会科授業には、目標に対して適正な教材(資料)がある。本時の目標に対して適正な教材(資料)は、教師や学級の児童生徒の構成・実態にかかわらず子供の社会認識形成に固有の機能を果たしている。そのため、教育内容の媒介体とも言える教材は、目標に基づく教育内容を含み、子供の発達段階に即した媒介素材であるかの検討が必要である。

(3) 社会科授業コミュニケーションの整備

社会科の学習活動には、講義・説明を聞く活動、観察・資料活用・表現など具体的な操作を伴う活動、話し合い活動などがあるが、その中で社会認識を深めていくのは話し合い活動によることが多い。社会科における話し合いでは、学習活動に関する話し合いと学習内容に関する話し合いが行われている。この両者がここでいう授業コミュニケーションである。

そこで、授業においてどのような発問、発言が行われているかが社会科授業の質を規定する。しかも、この社会科授業コミュニケーションの先導は教師の発問である。発問の質が発言の質を高め、その逆の発言の質が高い場合も、その背景には発問による指導があることが多い。授業を客観的に創ることができるのは、この教師による発問の先導性にある。

よって、授業コミュニケーションの整備は、社会科授業設計には欠かせない要件である。それは個別的になりがちな学習指導過程を客観的に診断・評価できる視点ともなり、望ましい発問と子供の発言の扱い方を考える拠り所になる。

以上、社会科授業の基本原則に基づき授業計画書(学習指導案、学習指導細案、教材(資料))は整備される必要がある¹¹⁾。

3 最善の授業計画書による実験授業(研究的な誇張授業)の実施

最善の授業計画書による実験授業(研究的な誇張授業)の実施は、子供の学習の到達点の高さを捉える好機である。教師にとって、子供は育てるところまで育つという到達点の子供像を、発達段階相応にどれだけ高く描くことができるか、その描く到達点の高さが教師の授業力向上に深くかかわってくる。同じ授業が参観する複数の教師間で評価が分かれるのは、教師によって授業で育つ子供の到達点の高さの予測が異なるからである。常に、教師は、育つ子供像の目安の高さを自ら内に持ち、日頃の指導の拠り所にしているからである。したがって、教師の授業力のレベルと授業で育つ子供のレベルの予測は相関関係にあり、授業で子供が育つ目安を高く予測し、実証できる教師ほど授業力の可能性(Potential)が高いことになる。その目安の高さを極めるには、

通常の授業ではなく実験授業の実施が有効である¹²⁾。

過年、同一実験授業の追跡研究にかかわったことがある。一度目の学習指導案と教材は同一のものを使用、学習指導細案の教師の発問と説明言語を一部、改善して、再度、他の学校同学年学級で授業が行われた。精度を高めた誇張授業の実施である。すると、次の結果が顕著に現われた。授業目標の知識・理解の達成度は両学級の児童ともほぼ同一であったのに対して、思考・判断力、関心・意欲・態度に関する学習は、二度目の学級児童の方が授業の逐語記録、ノート記述の分析から優れていることが判明した¹³⁾。

同一教師の明確な発問、理解可能な説明言語、子供の主体的な思考を促す発言の取り扱いの三点の修正が、子供の思考活動を促進し、関心・意欲の学習姿勢・態度を旺盛にしていった。知識・技能など一部スキルを伴う学力は、教師による外部からの働きかけで一定程度、習得可能であるが、思考力、関心・意欲・態度など情意を伴う学力形成には子供の内発的動機・自発性が欠かれない。こうした学習心理学の成果の一端も研究的な誇張授業では実証的に明らかになる¹⁴⁾。

Ⅲ 社会科授業改善・評価の事例

本稿で課題とする授業改善の三点は、前述の通り i 適正な授業計画書の作成 (Plan), ii 最善の授業計画書に基づく研究的な誇張授業の実施 (Do), iii 客観的な授業分析による評価 (See) である。これより二名の小・中学校教諭の実践を手がかりに授業改善の視点についての検討を行う。いずれも、最善の授業計画書に基づく研究的な誇張授業の実施 (Do) であるため、それぞれ残る二点の評価についての検討に重点をおく。小学校 A 教諭の授業は授業結果の評価 (See), 中学校 B 教諭の授業は授業計画書の評価 (Plan) を検討対象とし、両者は筆者が考案した「社会科学習活動分析カテゴリー」¹⁵⁾により分析、評価を行うことにする。

1 小学校における授業結果の分析と評価

(1) A 教諭の授業実践の概要

A 教諭は実践当時教職歴 6 年、ここでは氏の二度の授業実践結果の分析を通して、氏の授業改善の視点を明らかにする。二度の授業実践、一つは研修前の授業 (以後、A 1 の授業と呼ぶ)、二つは研修後の授業 (以後、A 2 の授業と呼ぶ) である。各授業計画 (学習指導案) の概要は次の通りである¹⁶⁾。

留学前の授業 (A 1) 第 4 学年単元「江ノ口川」(1994. 12. 6 実施)

本時の目標

調べ学習や江ノ口川に関する話をもとにして江ノ口川を汚染している原因を明らかにする。

指導過程 [] 内は資料、教具

- i ビーカーに取った「江ノ口川」の水を見て気づきを発表、汚染理由を考える。
果たして、江ノ口川はもとの清流にもどすことができるだろうか。 [実物]
- ii 高知パルプが廃業したのに、江ノ口川がきれいにならないのはなぜか。現在の汚染源を考えさせる。 [写真]
- iii 実験「私の台所」の「流し台」から汚水を流すことで、家庭排水について考えさせる。 [模型]
- iv 台所から出る家庭排水と、その汚水分解に必要な水量について考えさせる。

- ・川にすむ生きものの気持ちを考えてみる。 [マンガ絵]
- ・自分のできることを考える。
江ノ口川をもとの清流にするために、市民一人一人も努力しなければならない。
- v 汚れた湖に自然が戻った例を紹介する。
留学時の授業（A2）第4学年単元「高知市のし尿」（1995.7.13実施）
本時の目標
昭和地区と旭地区のトイレ調べを手がかりに高知市の下水道の敷設状況を理解させる。
指導過程
- i 前時の復習と種類別トイレの確認をする。 [トイレの種類別の絵]
- ii 昭和、旭両地区のトイレの分布図より、本時の課題をつかむ。
昭和地区には浄化槽のない水洗トイレがあるのに、旭地区にはないのはなぜだろう。
[両地区のトイレの分布図とグラフ]
- ・昭和地区には近くに下水処理場があり、旭地区にはないことがわかる。
- iii 昭和、旭両地区の違いには、トイレ以外にもないか調べる。
・昭和地区には江ノ口川にパイプがあまり突き出していないが、旭地区には沢山ある。
[写真『江ノ口川沿いの排水パイプ』]
- iv 高知市の下水処理の様子を地図上より調べる。
[分布図『高知市の下水道敷設状況』]

高知市には旭地区のような所が多く、昭和地区のような所が少ない。

（2）A教諭の授業結果の分析と評価

A1, A2の授業の分析結果、主なものを記すと、次の通りである。

ア 学習指導過程の分析波形図

学習活動分析波形図（図1）、時系列による学習活動分析表（表1）と学習活動分析カテゴリーのまとめ（表2）を記すと、次の通りである。（紙幅の都合で波形図はA2のみ記す）

学習活動の分析結果

A1, A2の授業の共通点として、導入、終末段階に高位のカテゴリーが含まれている。これは導入段階では課題設定、終末段階では課題解決の応答として用いられている。

A1の授業の展開段階では、発問が高位、中位のカテゴリーの繰り返しになっており、発言もほぼ同様の応答になっている。

一方、A2の授業では、低位のカテゴリーも含め多様な応答になっている。これは展開段階の発問の差異によるものと思われる。

学習活動分析カテゴリーのまとめ（発問、発言の合計）の結果を記すと、次のようになる。

	低位	中位	高位	
A1の授業	16(6)	40(24)	67(37)	
A2の授業	42(21)	36(22)	47(33)	()内は展開段階

結果の考察

授業全体から見ると、A1の授業は高位のカテゴリーが多用されているのに対してA2の授業は、突出したカテゴリー使用は見られない。学習指導案の指導過程の学習活動構成に差異が

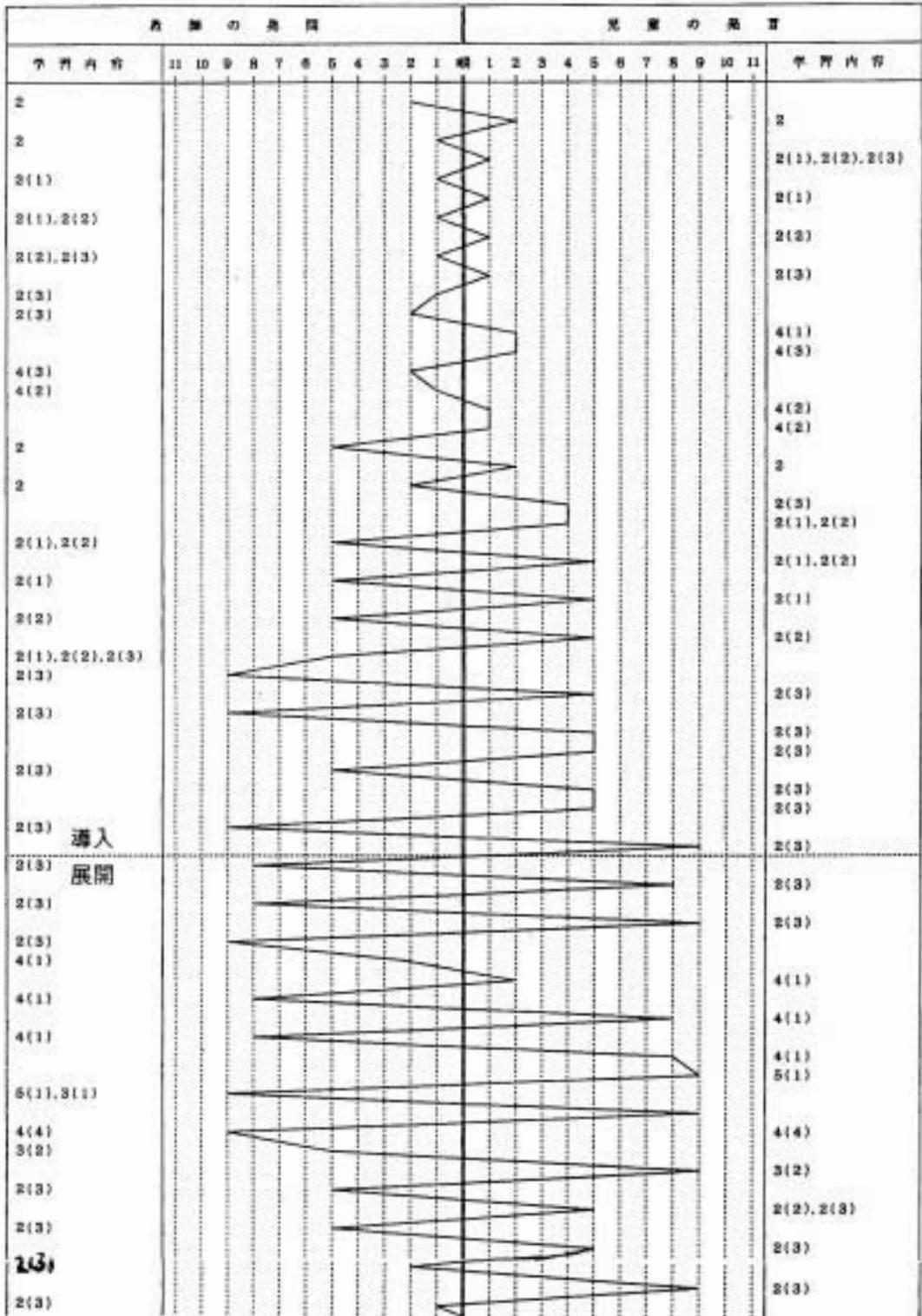


図1 学習指導過程の分析波型図

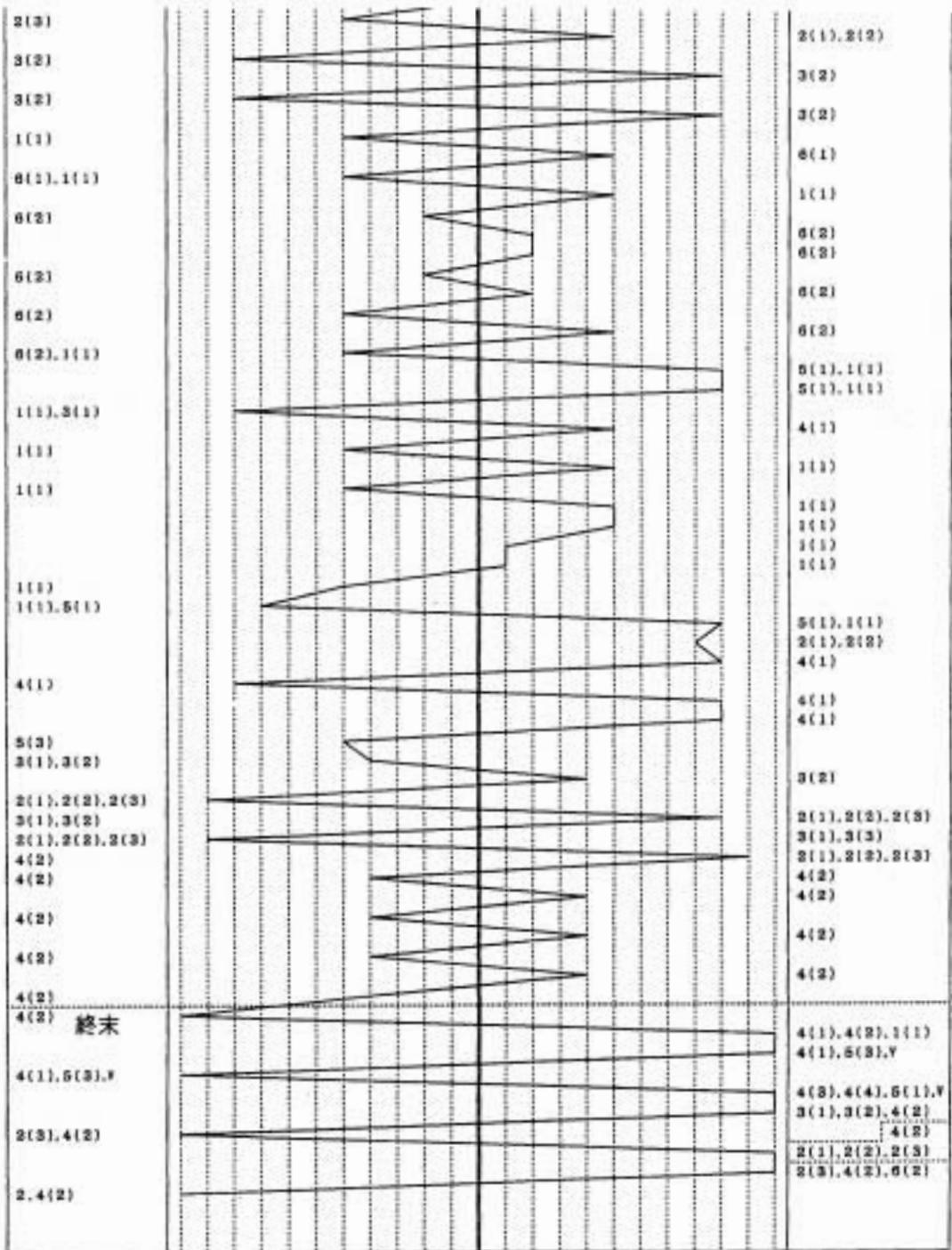


表1 時系列による学習活動分析表

A1「江ノ口川」

		1 名称	2 場所	3 時 間	4 数	5 状態	6 目的	7 機能	8 理由	9 推論	10 関連	11 結論	計	ダブリ	X	実質
導入	発問		4	2		4			2	4			16	5		11
	発言		3	1		6			2	3			15			15
展開	発問	1			2	11			9	2	2		27	1	2	25
	発言	1			2	12	1		19	2	3		40		3	43
結末	発問					2				1	1	4	8			8
	発言					4				7		6	17			17
計	発問	1	4	2	2	17	0	0	11	7	3	4	51			
	発言	1	3	1	2	22	1	0	21	12	3	6	72			
合計		2	7	3	4	39	1	0	32	19	6	10	123			

A2「高知市の下水道と人々の暮らし」

		1 名称	2 場所	3 時 間	4 数	5 状態	6 目的	7 機能	8 理由	9 推論	10 関連	11 結論	計	ダブリ	X	実質
導入	発問	6	3			6				3			18	2	0	16
	発言	6	4		2	8				1			21			21
展開	発問	1	4		5	12			5	7	2		36	3		33
	発言	3	4		4	10			4	14	1		40			40
結末	発問											4	4		1	5
	発言											6	6			6
計	発問	7	7	0	5	18	0	0	5	10	2	4	58			
	発言	9	8	0	6	18	0	0	4	15	1	6	67			
合計		16	15	0	11	36	0	0	9	25	3	10	125			

表2 学習カテゴリーのまとめ

A1「江ノ口川」

カテゴリー	導入		展開		終末		計		合計
	発問	発言	発問	発言	発問	発言	発問	発言	
低位	6	4	3	3	0	0	9	7	16
中位	4	6	11	13	2	4	17	23	40
高位	6	5	13	24	6	13	25	42	67
計	16	15	27	40	8	17	51	72	123

A2「高知市の下水道と人々の暮らし」

カテゴリー	導入		展開		終末		計		合計
	発問	発言	発問	発言	発問	発言	発問	発言	
低位	9	12	10	11	0	0	19	23	42
中位	6	8	12	10	0	0	18	18	36
高位	3	1	14	19	4	6	21	26	47
計	18	21	36	40	4	6	58	67	125

表3 社会的用語使用の状況

社会科的用語使用状況 A：江ノ口川 1994.12/6 B：高知市のし尿と下水道 1995.7/13	導入		展開		終末		計		合計	導入		展開		終末		計		合計	
	発問	発言	発問	発言	発問	発言	発問	発言	発問・発言	発問	発言	発問	発言	発問	発言	発問	発言	発問・発言	
1. 下水・ゴミの種類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 家庭排水	0	0	15	21	2	3	17	24	41	0	0	8	9	0	1	8	10	18	
(2) し尿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(3) 産業廃水	3	3	4	3	1	0	8	6	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(4) 雨水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(5) ゴミ・ヘドロなど	0	0	5	10	2	7	7	17	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2. トイレの種類・分布	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	3	1	4	
(1) 汲み取りトイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	2	4	0	1	7	10	17	
(2) 浄化槽つき水洗トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	2	5	0	1	8	12	20	
(3) 浄化槽なし水洗トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	9	10	8	1	2	19	19	38	
3. 下水の行方	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(1) 下水道を通るもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	1	4	2	5	
(2) 下水道を通らないもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	1	5	6	11	
4. 下水処理場・下水道管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(1) 位置, 場所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	1	2	5	9	14	
(2) 処理地区, 未処理地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4	3	5	8	
(3) 機能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5	4	0	1	6	7	13	
(4) 経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	2	3	5	
5. 下水処理の願いと対策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(1) 下水を出す人々	0	0	3	7	4	3	7	10	17	0	0	2	4	0	1	2	5	7	
(2) 下水を処理する人々	0	0	0	0	2	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	
(3) 下水を処理する公共団体(高知市)	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	2	1	3	
6. 地域の環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(1) 集落分布	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	
(2) 川・海(水状況)	13	12	7	11	2	5	22	28	50	0	0	4	4	0	1	4	5	9	
(3) 下水の再利用	0	0	0	0	2	4	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
カテゴリー1～6までの合計	16	15	34	52	16	22	66	89	155	24	25	49	53	7	18	80	96	176	
その他																			
T: 時間意識	4	4	2	1	0	0	6	5	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
V: 価値意識	3	0	3	10	5	13	11	23	34	0	0	0	0	1	2	1	2	3	
X: 授業進行	0	0	2	3	0	0	2	3	4	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
カテゴリー全合計	23	19	41	66	21	35	85	120	205	24	25	49	53	9	20	82	98	180	

あるものと思われる。

イ 社会科的用語使用の範囲と頻度の分析

時系列による社会科的用語使用の状況は表3の通りである。学習内容の分析結果から社会科的用語使用の範囲と頻度の分析を行うと、表4のようになる。社会科的用語使用の範囲とは、導入、展開、終末の各発問、発言において、異なる社会科的用語カテゴリーを用いた数を言う。また、同一カテゴリーの最高頻度とは、その範囲の中で最も多く用いたカテゴリーの回数を言う。

学習内容の分析結果

授業単元の学習内容は（6項目26事項）の使用状況結果は次の通りである。

A 1 3項目8事項 授業単元内の学習内容の30%に関係した用語使用

A 2 6項目16事項 授業単元内の学習内容の62%に関係した用語使用

単元の学習内容の取り扱いはいは既習，未習を含めて触れる範囲は広い方がよい。

結果の考察

A 1の授業は，発問，発言ともに社会科の用語使用の範囲は狭く，同一カテゴリーの最高頻度は多い。一方，A 2の授業は，社会科の用語使用の範囲は広く，同一カテゴリーの最高頻度は少ない。A 1の授業は，狭い範囲で同じ用語を何度も用いているのに対して，A 2の授業は，単元に必要な学習内容を多く取り入れた発問，発言を行っていると言える。

表4 社会科の用語使用の範囲と頻度の分析

A 1の授業

社会科の用語	導入		展開		終末	
	発問	発言	発問	発言	発問	発言
カテゴリーの数（範囲）	2	2	5	5	8	5
同一カテゴリーの最高頻度数	13	12	15	21	4	7

A 2の授業

社会科の用語	導入		展開		終末	
	発問	発言	発問	発言	発問	発言
カテゴリーの数（範囲）	7	7	13	12	5	13
同一カテゴリーの最高頻度数	8	9	10	9	3	4

ウ 価値意識を付帯した発問の状況

時系列による学習内容分析表には，社会科の用語使用の欄と合わせて，それに付帯する価値意識の項がある。価値意識を付帯した発問，発言の状況をまとめると，次のようになる。

価値意識を付帯した発問の状況

	発問	発言	合計
A 1の授業	11	23	34
A 2の授業	1	2	3

価値意識を付帯した発問状況結果の考察

A 1の授業は，価値意識を伴った発問，発言が多く，A 2の授業ではそれが減少している。価値意識を伴った発言は，発問の影響を受けやすく，A 1の授業には，それが認められる。

A 1の逐語記録

T 江ノ口川は百年前のようなきれいな川にもどろうかねえ。もどせる？

C ううん。（返答に困った表情）

T では，百年前のきれいな川にもどしたい人？

C はい。(全員，挙手)

C この汚い水は、(私たちが)朝昼晩と流しているのだから、川が汚くなるのは当たり前のことだと思います。

T みんな気がついちゃった？すごくいいこと言ったね。

*子供の限定した価値反応を教師が言葉で操作していることがわかる。

A 2の逐語記録

指導案の観点別目標 「知識・理解」の観点の記述

・高知市の下水道の敷設状況は、まだまだ少ないことを知る。

114C63 高知市には、まだまだ下水道処理場が少ないことがわかった。だから、お金を貯めて下水道処理場を増やせばよい。 11 [4(1)5(3)V](Vは価値意識)

*観点別の到達目標が逐語記録に現われ事実認識から価値認識に至る学習原理を示している。

授業変容の評価

A教諭の授業改善に伴う授業変容の成果の主なものは、次の点である。

多様な学習活動の展開

学習指導過程の分析波型図(以後、波型図)の展開段階において低位、中位、高位の各カテゴリーの使用に格差がない。これは学習指導案の指導過程の改善によるものと思われる。同質のカテゴリーの応答に終始しない学習活動の展開が評価できる。

事実認識を重視した授業構成

学習活動分析カテゴリーの低位、中位、高位の各カテゴリーがほぼ均等に使用されているのは、社会的事象の理解に当たって、その把握理解に必要な基礎的視点(低位)、全体的視点(中位)、意味の把握の視点(高位)を考慮して授業構成がなされていることを意味する。

特に、高位の「なぜ」(8理由)を問うカテゴリーの多用を改め、「様子」(5状態)の基礎となる低位のカテゴリーの応答が増していったことは評価できる。

社会科的用語使用の増加と教材の整備

社会科的用語使用の範囲が狭く、同一カテゴリーの最高頻度が多くなるのは、期待する学習活動に対して教材(資料)が未整備なことが多い。

ここでは、本時の目標に基づく学習内容の検討とそれにかかわる教材(資料)の成果が現われている。

教師の指導姿勢の変化と価値意識を伴う発問

価値意識を伴う発問、発言が減少してきたのは、教師の言語活動の変化による。発問に価値意識を伴うのは、教師の指導姿勢が情意面で高揚し、「事実認識から価値認識に至る」社会科学学習原理が見失われる時である。教師の価値意識が先行すると事実認識を不確実にし、子供の主体的な価値認識形成を妨げることになる。この点から、価値意識を伴う発問の減少は評価できる。

日頃の堅実な授業研究と比較研究方法の妥当性

A教諭の2つの授業の比較研究を可能にしたのは、各授業実践のビデオカメラ収録による授業記録の保存にある。日常の堅実な授業研究の取り組みとして評価できる。また、その後の授業研究の対象を同学年同単元としたことは、比較研究の精度を高める上で妥当な研究方法と言える。

2 中学校における授業計画書の分析と評価

(1) B教諭の授業計画の概要

B教諭は教職歴23年、四国社会科教育研究大会(2004.11.19),第1学年社会科(地理的分野)の授業者(高知市立城西中学校教諭)である。学習指導案の一部と本時使用した教材・資料の一覧を示すと次の通りである⁷⁾。

学習指導案

単元 世界と日本の人口

本時の目標

- ・高知県榛原町を始め国内の過疎地域の課題に関心を持つ。(関心・意欲・態度)
- ・榛原町の千枚田オーナー制度の目的と高齢者が安心して生活できる主な条件を各種資料から読み取ることができる。(観察・資料活用・技能・表現)
- ・榛原町の過疎の取り組みを地域の文化遺産の維持・保存,高齢者の医療・福祉の視点から考えることができる。(社会的思考・判断)
- ・榛原町の過疎の課題と取り組みがわかる。(知識・理解)

本時の展開

課 題	学習内容と活動	教師の指導と支援	資 料	評 価
1. 高齢化が進む 榛原町では過疎の 課題にどのように 取り組んでいるだ ろうか。	過疎地域の取り組 みの中で,千枚田の 維持と高齢者の医 療・福祉について調 べることを確認す る。			
2. 榛原町 <small>かんざいこ</small> 神在居 地区では,なぜ, 千枚田のオーナー 制度が取り入れら れているのだろう か。	(1)千枚田オーナー 制度の目的について 考える。 ・千枚田の利用状況 を調べる。 (オーナーの居住 地・参加人数) ・オーナー制度導入 による地域の変化に 気づく。 千枚田...耕作体験す る他地域の人々 地区住民...人々の交 流による活性化	・オーナー制度の 利点について利用 者と地区住民の両 方から考えさせ る。 ・過疎地域と他地 域との交流による 活性化の他地域の 事例について,想 起させる。 ・オーナー制度の 取り組みについて どう思うか判断さ せる。	写真(千枚田の立 て札)平成16年度 の利用状況 地図(オーナーの 分布) 写真(千枚田の景 観) 文書資料	・各資料のねらい に沿った読み取り ができたか。 (資料活用・表現)
3. 榛原町では, 高齢者が安心して 生活できるため に,どのような取 り組みをしている のだろうか。	(1)高齢者が安心 して生活できる主な 条件について考え る。 ・本校生徒のアン ケート結果から高齢		アンケート	・高齢者が地域で 安心して生活でき る主な条件につい て感心を持つ。(関 心・意欲・態度)

<p>4. 橿原町の過疎対策について、わかったこと、思ったことなどについてまとめよう。</p>	<p>者が地域に望む要望事項に関心を持つ。 (2) 橿原町の医療はどのように行われているか調べる。 ・橿原病院・四万川診療所・松原診療所の位置 ・A医師の診療巡回日誌 (3) 独居老人の介護支援について調べる。 ・高齢者合宿施設の利用状況 ・デイサービスの対象と範囲 (4) 地域の高齢者と地元小中学生との関係を調べる。 ・橿原町内の小中学生の意識調査 ・西川小学校の高齢者とのふれあい行事計画 今日の学習で分かったことや考えたこと・調べたいこと・思ったことについて発表する。</p>	<p>・交流活動の取り組みについてどう思うか判断させる。</p>	<p>地図（橿原町内） 資料（利用者からの聞き取り） 写真（松原地区の高齢者合宿施設） アンケート 資料（年間行事計画）</p>	<p>・高齢者の医療が町内の病院・診療所で行われていることがわかる。(知識・意欲) ・高齢者が安心して生活を送ることができる条件を考える。(思考・判断) ・千枚田の維持と高齢者の医療・福祉対策の取り組みについてまとめる。(資料活用・表現)</p>
---	--	----------------------------------	--	---

教材・資料一覧

高知市の高齢者の意識調査（回答189人，調査：城西中1年生徒，2004.10.21実施）

テレビ録画「新選組」（NHK大河ドラマ，平成16年10月17日放送）

資料1 橿原町神在居地区オーナー制度（参加家族数の推移と借用者の分布）

写真「千枚田」「地主と借用者」「地主と借用者の懇親・交流会」

資料2 橿原町立橿原病院医師の巡回診療日程表

橿原町内の主な集落と病院，診療所の分布図

写真「A医師の巡回診療移動場面」

資料3 録音資料「高齢者合宿施設入居者Bさんの話」

写真「高齢者合宿施設の外観と室内」

資料4 平成16年度高齢者とのふれあい年間行事計画（橿原町立西川小学校）

写真「高齢者と児童の交流活動場面」

(2) 授業計画（学習指導細案）の分析と評価

学習指導細案の主なものは発問である。授業実施を前にどのような発問構成が計画されていたか。授業後に授業計画段階の発問を学習活動分析カテゴリーにより分析を行った。学習

指導細案の発問（紙幅の都合で略記）原簿の分析と分析結果を記すと次の通りである。

学習指導細案原簿の分析

1 本時の課題提示（3分）

榛原町の過疎の課題は何か。（千枚田の維持保存と高齢化対策） 7 機能
 榛原町の取り組みを調べよう。 X 学習進行

2 榛原町神在居地区の千枚田のオーナー制度導入の目的，理由を調べる。（15分）

この音楽の曲名は何か。（ドラマ「新選組」のテーマ曲） X 課題への関心
 「新選組」の故郷探訪，何が見えたか。（千枚田） 1 名称
 今日は龍馬が見たかも知れない千枚田が課題だ。 5 状態
 現在，地域の人は千枚田を耕作していると思うか。（選択肢設定） 9 推論
 この写真の立て札は田を借りて米を作る人の名前。 5 状態
 隣に立っている人は田んぼの持ち主。 5 状態
 この千枚田の貸与の目的，使用は有料，無料どちらか。（選択肢設定） 6 目的
 千枚田のオーナー制度の仕組みの説明 7 機能
 資料「榛原町千枚田オーナー制度」の重要箇所読み取りの指示 X 作業の指示
 千枚田のオーナー制度はいつ頃から始まっているか。 3 時
 今年，オーナーの家族は何組きているか。 4 数量
 地図を見て，国内のどの地方から来ているか。 2 場所
 千枚田を借りる人が年間百人以上いるのはなぜか。 8 理由
 榛原町民が考えたこのオーナー制度についてどう思うか。（選択肢設定） 8 理由
 オーナー制度を行っているうちによいことが起こった。何だと思うか。 9 推論 V
 地区の人とオーナーの集いの写真を見て町にとってよいことが分かるか。 8 理由
 他の過疎町村でもこれと似た取り組みがあると思うか。 10 関連

3 榛原町内の高齢者の医療・福祉，交流活動の様子を調べる。 V は価値意識

（1）アンケート調査から高知市の高齢者の要望事項に気づく。（3分）

町内の高齢者に対する取り組みについて調べよう。 7 機能
 町内の高齢者の医療・福祉の要望を高知市の声を参考に考える。 X 学び方の示唆
 高知市の高齢者の日常の要望事項，ベスト3は何か。 5 状態
 高知市の高齢者と町内の高齢者の日常の要望事項は同じか違うか。 9 推論

（2）榛原町の医療活動について調べる。（12分）

高齢者が望む第1位，町の医療の働きを調べよう。 7 機能
 町には町立の榛原病院，松原，四万川各診療所がある。 1 名称
 地図を見て各医療施設の位置，集落と診療範囲を調べよう。 2 場所
 この地図を見て気づくことはないか。（病院の数と各集落の距離） 4 数量
 少ない病院，町ではどのような工夫をしているだろう。 7 機能
 榛原病院のA医師の一日の医療活動を資料で調べてみよう。 7 機能
 各診療所には，いつも医師はいるだろうか。 3 時
 榛原病院の5名の医師が2箇所の診療所の医療に隔日に当たっている。 4 数量
 この資料と写真から医師と病院の工夫を述べよ。（巡回診療，往診） 7 機能
 町立の医療施設の目的は何か。（町民の健康の維持と医療活動） 6 目的

(3) 榛原町の福祉活動について調べる。(5分)

- 高齢者の福祉施設, 高知市にある施設がここにもあるだろうか。 7 機能
- 町内には高齢者合宿施設が9箇所ある。 4 数量
- 町内松原地区の高齢者合宿施設で暮らすBさんの話を聞いてみよう。 5 状態
- 高知市の福祉施設と比べ違いが分かるか。(四国山地, 雪に備えた施設) 7 機能

(4) 地域の交流活動について調べる。(5分)

- 町内の小・中学生は高知市の子供と比べ高齢者との交流の頻度はどうか。 9 推論
- 町立西川小学校の高齢者とのふれあい行事計画を資料で調べてみよう。 5 状態
- これは「おばあちゃんの味」, こんにやくづくりの写真。 5 状態
- 高知市の子供と比べて高齢者との交流が多いことが分かるか。 7 機能
- これは高知市の高齢者の要望事項(病院, 話相手, 交流)の何番目か。 5 状態
- このような交流活動, 町内の高齢者にとってよいことだと思うか。 8 理由 V

4 本時の学習のまとめ(7分)

- 今日は日本の人口の過疎地域の例として榛原町のことを調べた。 X 学習進行
- 今日の学習で分かったこと, 考えたことをノートにまとめよう。 11 結論
- 次時は人口の過疎, 過密地域に共通する課題について学習しよう。 X 次時の予告

学習指導細案発問分析結果

学習指導細案発問(以下, 細案と記す)分析結果をまとめると, 表1, 表2の通りである。
 ア 授業設計にあたり学習活動分析カテゴリーが全て使用されている。大別すると, 低位は10, 中位は20, 高位は10の使用になっている。
 イ 教師の言語活動の総数は46, その内学習活動分析カテゴリー該当の発問は40, その他(学

表1 時系列による学習活動分析表

時系列の学習事項	1 名称	2 場所	3 時	4 数量	5 状態	6 目的	7 機能	8 理由	9 推論	10 関連	11 結論	計	その他	価値意識
1 課題確認														
2 千枚田の保存	1	1	1	1	3	1	2	3	2	1		16	3	2
3 医療福祉交流														
(1)高齢者(2)医療	1	1	1	2	1	1	5		1			13	1	
(3)福祉 (4)交流				1	4		3	1	1		1	11	2	1
合計	2	2	2	4	8	2	10	4	4	1	1	40	6	3

表2 学習活動分析カテゴリーのまとめ

カテゴリー	1 課題提示 2 千枚田の保存	3 福祉活動 (1)高齢者(2)医療	(3)福祉(4)交流 4 学習のまとめ	合計
低位	4	5	1	10
中位	6	7	7	20
高位	6	1	3	10
計	16	13	11	40

習進行，作業の指示，学び方の示唆，次時の予告）の言語は6である。

ウ 時系列の各学習段階で学習活動分析カテゴリーの使用状況を見ると，課題把握・千枚田のオーナー制度，高齢者の要望事項・町の医療活動，町の福祉・交流活動に関する学習の順に多く使用されている。（16，13，11）

また，学習指導細案（発問の略記）原簿で各学習事項の言語数を見ると，千枚田のオーナー制度は17，町の医療活動は10，町の福祉活動は4，地域の交流活動は6の言語使用になっている。

学習指導細案発問分析結果の考察

細案の発問構成は，社会科学学習活動の成立に適していると言える。低位，中位，高位のカテゴリーの使用割合もほぼ妥当である。教師の言語活動の総数は小学校の事例と比較してやや多いが，学習事項の量から見ると許容される範囲にある。

時系列の学習事項では，各学習段階で次の特色が考えられる。千枚田のオーナー制度の学習は16の発問。そこでは結論を除く全てのカテゴリーを使用，15分間予定の学習事項で社会科学学習活動の要件を全て充足する構成となっている。その内訳も他の学習事項と比べ高位のカテゴリーの使用の割合が多い。予備知識の乏しい都市部の生徒にとっては，やや事象の意味理解に困難があることも考えられる。

町の医療活動の学習は10の発問。12分間予定の学習事項で低位，中位のカテゴリー使用が中心，高位のカテゴリーの学習は予定されていない。事象理解の学習が中心である。

地域の交流活動の学習は6の発問。5分間予定の学習事項で中位と高位のカテゴリーの学習。少ない発問で事象理解とその意味を問う学習が予定されている。

総じて，各学習事項の扱い方には濃淡があり，意図的に変化のある授業展開を設計していると言える。

その他（学習進行，作業の指示，学び方の示唆，次時の予告）の言語，及び中位，高位のカテゴリーの発問における一部選択肢設定の発問構成を見ると，生徒の能動的・主体的な学習活動が促されるように教師の言語が工夫されていることが分かる。また，各学習事項に関する教材も映像，写真，図表，地図，録音，生徒のアンケート調査結果資料など中学生の地域調査学習に必要な資料が多様に整備されていることが分かる。

（3）授業結果（生徒の授業感想）の分析と評価

授業後，生徒は本時の学習内容にかかわる用語を用いてどのような授業感想を記していたか。授業結果（生徒の授業感想）の原簿の分析と分析結果を記すと次の通りである。

授業結果（生徒の授業感想）の原簿の分析（紙幅の都合で一部）

- 3 岡村 高齢者は一人ではあまり動けない。ヘルパーに買物 [3(3)]，医者に往診とか大事だと思ふ [3(2)] 体力の限界はあるのでだれかの力を借りてやるといい。地域の人が近くにいななく一人暮らしの人が多いので [1] このような交流があれば不安もなくなるし楽しくなると思ふ [3(3) v] 今度はバスで皆で榛原町に行ってアンケートをとってみたい [比較，関心] [] 内は授業内容の項目
- 6 佐竹 お年寄り地域の人々との交流で生きがいと思えたり，もっとがんばろうと思うようになることが分かった [3(4)] ぼく達の高知市はまだ榛原町のようにすべてのお年寄りに対して気を配ることができていないので，これからはすべてのお年寄りが安心して暮らせるようにしないとイケないと思う。 [比較，4 v]

- 7 田村 自分達が住んでいる所と榛原町は違う点があり，病院も少なく診療所にはいつもは医師がいない [3(2)比較]。また，高齢者は小中学生と交流があることが分かった [3(4)]。もっと榛原町のオーナー制度をくわしく調べたい。 [関心]
- 8 西森 榛原町は高知市と比べて高齢者との交流がさかんに行われている [3(4)比較]。千枚田の維持保存のためにオーナー制度を実施，各地からさまざまな人が来ている [2]。医療では往診もしている [3(2)]。高知市も榛原町も高齢者が望んでいることは同じだ [3(1)]。
- 16 山川 医師が少ないから病院から診療所に行っている [3(2)]。オーナー制度によって神在居地区の人口は増えている [2]。榛原町は人口は少ないけど [1]。楽しみがあり，高齢者も楽しみながら人生を送っている。ぼくの晩年は榛原町で住みたい [3(4)]。
- 23 清水 私は他の過疎地域についても調べてみたい。人口を増やすために [2]，どのような活動をしているか調べてみたいと思う [4，関心]。

授業結果（生徒の授業感想）の分析結果

授業結果（生徒の授業感想）の分析結果をまとめると，表3の通りである。

ア 授業内容に関する記述は，地域の交流活動，医療活動，千枚田のオーナー制度，福祉活動の順で多い。また，交流活動では価値意識を伴った記述が多い。

イ 28名の生徒の記述は，社会的事象の状態，機能にのみふれた事実認識の記述が17，事実認識から価値認識に至る価値意識を伴った認識の記述が11である。

表3 生徒の授業感想分析表

授業感想分析結果

i 授業内容に関する記述

項目	記述数	価値意識	主な記述例
1 課題確認	7		人口が少ない，高齢者が多い，過疎地域
2 千枚田	7	1	田を貸すとはオーナー制度，よく考えたと思う。
3 医療福祉交流			
(1) 高齢者意識	1		K市もY市も高齢者が望むことは同じだ。
(2) 医療活動	11		時間も決め，往診もするのですごい，往診(3)
(3) 福祉活動	5		病院，医師が少ないながらも工夫していた。
(4) 交流活動	20	8	高齢者も楽しむ人生，僕の晩年はY町で住みたい。
4 学習のまとめ	6	2	今後全ての人が安心して暮らせないといけない。
合計	57	11	分析対象生徒28人(40人在籍学級，他は，当日，欠席者，未提出者)

学習活動に関する記述

1 事実認識	17	Y町では病院が近くなって困っている人がいる。
2 価値付帯認識	11	子供が高齢者とよく交流，皆のことを考えている。
計	28	
3 事象の比較	9	Y町はK市と比べて高齢者との交流がさかんである。
4 関心意欲	9	今度，皆でY町に行ってアンケートを取ってみたい

ウ その他，他地域との事象の比較の記述が9，関心・意欲を示す記述が9である。

授業結果（生徒の授業感想）の分析結果の考察

学習内容に関する生徒の授業感想の中で地域の交流活動の記述が多かったのは，地域の交流活動の内容が生徒にとって身近で，その事象の理解と思考活動が容易であったためと思われる。5分間予定の学習活動で学習効果の高い学習内容であったと評価できる。

学習内容に関する生徒の授業感想の中で，千枚田オーナー制度の記述が15分間予定の学習活動の割に少なかったのは，その内容理解の困難さを表している。一方，少数ながら価値意識，関心・意欲を伴う記述もある。例えば， の発問「他の過疎町村でもこれと似た取り組みがあると思うか」に対して，23清水は「私は他の過疎地域についても調べてみたい。人口を増やすために[2]，どのような活動をしているか調べてみたいと思う[4，関心]」と反応している。適切な発問構成による学習活動の成果と言える。

学習内容に関する生徒の授業感想の中で事象の比較の記述が見られるのは，事前の生徒による高知市の高齢者対象のアンケート調査活動実施のためと思われる。地域の社会的事象における地方的特殊性と一般的共通性を探る上で事前のこの調査活動は有効であったと評価できる。

結 語

今日，学校は，教育課程のすべての授業結果（Evidence）に責任を持つことが迫られている。当然，教員の安定した授業力が問題になる。授業に直接関与し授業・教師が抱える課題に迫る識者の提案も多い⁹⁸。本稿は，そうした学校教育の動向に対して，社会科授業改善の視点の提起にあたり，理論仮説を次のように定めた。i 社会科授業の基本原則に基づく授業計画書（学習指導案，学習指導細案，教材）の作成は客観的に可能である。ii 社会科授業コミュニケーション分析法による授業結果の評価，学習指導細案の評価は客観的に可能である。iii 最善の授業計画書に基づく実験授業（研究的な誇張授業）の実施は，児童生徒の学力伸張の把握と適正な授業設計の原理の検証に有効である。

本稿では，授業事例の分析を通してその論考を試み，次の検証を得ることができた。（1）小学校におけるA教諭の授業結果の分析では，授業結果の客観的な診断・評価（A1の授業）と授業計画書（学習指導案）の作成（A2の学習指導案）は客観的に可能であった。（2）中学校におけるB教諭の授業計画書（学習指導細案）の診断・評価は，客観的に可能であった。（3）A教諭のA2の授業，B教諭の授業は最善の授業計画書に基づく授業（研究的な誇張授業）である。この実践により，該当単元における児童生徒の社会科学力伸張の度合いの把握とそれにかかわる適正な授業計画の在り方を明らかにすることができた。

本稿で示した授業改善の視点 i 適正な授業計画書の作成は，他教科，他領域の授業設計においても有効である。近年，教科「生活科」⁹⁹，道徳²⁰，保健体育²¹の各授業計画書作成の研究に関与した際，いずれも公開授業において，授業レベルの水準が上がり，児童生徒の良好な学習結果を授業記録と学習ノートからとらえることができた。教科，領域に固有の目標，内容，方法と児童生徒の発達特性を考慮した授業設計の原理に基づく第三者の指導・助言は，小・中の校種，地域を問わず適切・有効である。にもかかわらず，各学校で安定した授業が等しく得られないのはなぜか。何よりもまず，授業設計における公的・客観的側面の整備に着目する必要がある。

教員の個性・私的発想にのみ依らない授業観と授業設計体制が各学校で急がれている。

註

- (1) 山極 隆(2004)「いま,教員の資質・能力の向上が一層求められている 専門能力や指導能力向上へのシンセンティブ」『現代教育科学10』明治図書 pp.5 7
- (2) 中野重人(2003)「どんな学力を保障するか」『現代教育科学6』明治図書 pp.11 13
- (3) 日本教育新聞(4月9日)で山極 隆が「授業力の検定制度がほしい」と提唱,各地で話題となり,前掲『現代教育科学10』では「授業力検定をこうして創る」の特集企画をしている。
- (4) 教育職員養成審議会第一次答申(1997)「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」2.大学の教職課程の役割(1)教員の資質能力の形成過程。
- (5) 大森 修(2004)「授業力をライセンスで認定して給料を決める」『現代教育科学10』明治図書 pp.11 13.
- (6) 染谷幸二(2004)「教師の実力を確実に向上させている」『現代教育科学10』明治図書 pp.26.
- (7) 志水幸二(2004)「学力向上を願っての整合性」『現代教育科学3』明治図書 pp.11 12.
- (8) 木下百合子(1991)『現代公民科教授の理論 新しい公民的資質の形成』教育出版センター, pp.145.氏は授業を「教える教師と学び教える生徒の協同構成」と規定している。
- (9) 昭和22年版学習指導要領,昭和26年版中・高等学校学習指導要領にはいずれも「社会科は民主的社會人を育成することを目的する」とあり,社会科誕生以来不変の性格である。
- (10) 中野重人(1985)「共感できる日本人を育てる社会科」『社会科教育の21世紀』明治図書 pp.73 74.
- (11) 詳しくは拙稿(1997)「社会科授業評価の視点～社会科授業コミュニケーションの分析を中心として」『社会科研究』第46号,全国社会科教育学会を参照されたい。pp.1 10.
- (12) 拙稿(2002)「子どもが生きる社会科授業実践学研究」『社会科月報』3月号,高知市教育研究会社会科部会。pp.658 669.誇張授業における子供の認識形成を示す事例は,例えば,次の拙書の中にある。『社会科授業実践学研究』(2002)(pp.83 .106 .170 173)
- (13) 前掲⁽¹²⁾ pp.659.高知大学大学院生(現職教員)柳川美和(2001)の授業。
- (14) 渡辺秀敏(1978)「内発的動機と外発的動機」.波多野完治監修『学習心理学ハンドブック』.金子書房。
- (15) 前掲⁽¹¹⁾ pp.3 社会科授業分析カテゴリーは,次の概念,要素で設定している。
「社会科学習活動分析カテゴリー」
社会的事象の基礎的視点: 名称, 場所, 時, 数量(低位)
社会的事象の全体的把握の視点: 状態, 目的, 機能(中位)
社会的事象の意味の把握の視点: 理由, 推論, 関連, 結論(高位)
「学習内容分析カテゴリー」
社会科的用語概念の設定は,社会諸科学の概念に依拠するより,指導する単元で用いられる具体的な用語から取り出す方が各学年の子供の発達段階から見て適当である。
- (16) 詳しくは大橋忠正・松岡 寛(1997)「児童の公民的資質の育成をめざす社会科授業の研究 社会科授業計画の在り方を中心として」『高知大学教育実践研究』第11号,高知大学教育学部教育実践研究指導センターを参照されたい。pp.1 16.
- (17) 吉川真由美(高知市立城西中学校教諭),第35回四国社会科教育研究大会(高知大会,2004.11.19)第1学年社会科(地理的分野)の公開授業者。
- (18) 佐藤 学(2001)『授業を変える学校が変わる』小学館, pp.229 230.
- (19) 小島陽子(広島市立五日市小学校教諭),広島市教育研究会(2004.10.14)第1学年生活科の公開授業。
- (20) 川井和郎(広島県安芸太田町立筒賀中学校教諭),平成16年度教育研究大会(2004.11.26)第1学年道德の公開授業。
- (21) 池 武子・常石美知代(高知市立泉野小学校教諭・栄養職員),平成16年度第2回「食に関する指導シンポジウム」文部科学省・高知県教育委員会主催(2005.1.28)第3学年体育科保健学習の公開授業。